

平成24年度 島根大学「萌芽研究部門」研究プロジェクト 計画書

1. プロジェクト名称	山陰地域における自然災害データベースの構築および防災研究拠点の形成					
	(英訳名)	Natural hazard database construction and Disaster Prevention Research Center establishment for San'in region				
2. プロジェクトリーダー	所属	総合理工学研究科	職名	准教授	氏名	汪 発武
	現在の専門	自然災害学			学位	博士(理学)
3. プロジェクトの概要 ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②当該分野の国内外の研究と比較して本プロジェクトのユニーク性・重要性・先見性、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。 ① 自然災害の軽減には多面的な取り組み方法が必要であるが、1つの方法として過去の災害履歴の把握がある。2011年東北地方太平洋沖地震とそれに派生した津波に関しても過去の記録の重要性が指摘された。そうした中で、山陰地域には古くから農耕文化が定着し、それに関連した長い歴史の記録がある。そこで、本研究では当地域を対象に過去の自然災害資料を発掘・整理し、それをもとに将来の予測研究を進め、効果的な防災計画に資することを目的とするものであり、地域減災の面からも意義がある。 ② 自然災害データベースの構築といった取り組みには継続性が要求されるが、本研究はその基礎をつくらうというものである。今日の地方大学にとって、「地域貢献」は大きな課題であり、その一環として「地域の防災・減災」への貢献は重要である。また、こうした研究課題はこれまでほとんどなされておらず、人口過疎化と高齢化が進む山陰地域にとっては重要かつ先見性が高い。 研究母体は島根大学の複数学部にまたがる自然科学、工学、人文科学、社会科学等の研究者で組織する。研究過程に学生や大学院生に参加させることで、地域に対する理解を深めることができる。申請者はこれとは別に学外の行政、地域防災関係者をも対象とした「山陰防災フォーラム」を組織しているが、データベース資料をこれに還元することで、地域の防災計画や防災事業に対する貢献度を高めていくことが期待される。						
4. 本学の大学憲章・中期目標・計画またはアクションプランとの関係 大学憲章の2「特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進」 および 3「地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進」 、また、 中期目標（研究）の「地域の知の拠点としての役割を果たすとともに、地域課題及び本学の研究蓄積に立脚した特色ある国際的水準の研究を重点的に推進し、その研究成果を積極的に社会に還元する」 に合致する。さらに、中期計画のNo.28「中山間地域、過疎、高齢化、自然災害などの地域課題解決に向けた研究を推進する」のうち、「自然災害などの地域課題解決に向けた研究」を具体的に実施していくための枠組みと位置づけることができる。						
5. 各年度の計画の概要 年度ごとに何をどこまで明らかにするのかを簡潔に書いてください。 H24年度 1) 山陰地域を対象とした歴史災害（気象（洪水と豪雪災害を含む）、地震、津波、斜面および地盤災害）にかかわる資料収集とデータベース構築を進める。 2) データベース資料をもとに山陰地域における自然ハザードと災害発生の特性抽出を進める。 3) 自治体などから防災に関する知識が求められた場合、必要な協力を行う。今年度は隠岐ジオパークや石見銀山遺跡などの防災に関する助言を行う。 4) 山陰防災フォーラム春・秋の講演会の開催、過去被災地の現地説明会、学習会を開催する。 H25年度 1) 自然災害データベースの構築を継続して進める。 2) データベース資料を参考にして斐伊川流域の洪水発生危険度評価を進める。 3) たたら製鉄・かんな流しと土砂災害との関係の研究を進める。 4) 山陰地域の自然災害データベースに基づいて研究集会を実施するとともに、「山陰地方の災害特性および防災技術」（仮題）の出版に向けた編集を行う。						
6. 配分経費 （単位：千円）25年度は24年度と同額をカッコ内に記入して下さい。						
平成(年度)	24	25	合計			
配分予定額(千円)	1,750	(1,750)	(3,500)			

7. 平成24年度の研究計画および達成目標			
【研究項目】 研究項目には①,②,・・・の様に番号をつけて箇条書きしてください。		【達成目標】 対応する研究項目に対して第三者が本年度に達成できたと判断できる具体的な目標を記入してください。	
①山陰地域における気象災害データベースの構築		①江戸時代からこれまでに島根県に発生した気象災害のデータベースを構築する。山陰地方の諸平野(鳥取・倉吉・米子・安来・松江・出雲・大田・浜田・益田)の洪水被害をデータベース化。	
②山陰地域における地震災害・地盤災害データベースの構築		②多数の既存文献をもとに、過去の地震災害と地盤に関する災害の資料を収集し、データベース化していく。島根・鳥取両県を震源とする被害地震のデータベースを完成させる。	
③山陰地域における津波災害データベースの構築		③基本的な文献をもとに、山陰沿岸での津波あるいは津波によると推定されている現象と災害に関するデータを収集し、データベース化していく。	
④山陰地域における建築物災害データベースの構築		④近年発生した地震による建築物被害データベースを構築する。	
⑤山陰地域における斜面災害データベースの構築		⑤石見銀山遺跡の落石も含めて、島根県で発生した斜面災害を調査し、データベース化していく。	
⑥山陰防災フォーラム・防災学習会開催		⑥山陰防災フォーラム春および秋の講演会を開催し、地域住民を対象とした防災学習会や啓発活動を行う。	
8. プロジェクト推進担当者 平成24年度に限って記入してください。計 10 名			
ローマ 氏 名	所属部局(専攻など)・職名	現在の専門・学位	役割分担
(プロジェクトリーダー) Wang Fawu 汪 発武	総合理工学研究科 地球資源環境領域・准教授	防災工学・博士(理学)	総括・斜面災害を担当
Yokota Shuichiro 横田 修一郎	総合理工学研究科 地球資源環境領域・教授	応用地質学・理学博士	地震災害を中心としたデータベース担当
Tasaka Ikuo 田坂 郁夫	法文学研究科 社会文化領域・教授	自然地理・気象災害・理学博士	気象災害を中心としたデータベース担当
Hayashi Masahisa 林 正久	教育学研究科 共生社会教育分野・教授	自然地理・地域環境・文学修士	山陰地域における洪水災害データベースの構築
Maruta Makoto 丸田 誠	総合理工学研究科 材料プロセス工領域・教授	建築学・博士(工学)	地震による構造物被害の担当
Irizuki Toshiaki 入月 俊明	総合理工学研究科 地球資源環境領域・教授	堆積学・博士(理学)	津波災害データベースの構築
Masumoto Kiyoshi 増本 清	総合理工学研究科 地球資源環境領域・准教授	地下水学・博士(工学)	地下水流にかかわる災害関係の担当
Sakai Tetsuya 酒井 哲弥	総合理工学研究科 地球資源環境領域・准教授	堆積学・博士(理学)	堆積学的にみた歴史津波および洪水災害関係の担当
Hayashi Hiroki 林 広樹	総合理工学研究科 地球資源環境領域・准教授	環境地質学・博士(理学)	地震災害研究担当
Shibi Toshihide 志比 利秀	総合理工学研究科 地球資源環境領域・助教	地盤工学・博士(工学)	地盤災害を担当

9. 平成24年度経費明細 研究項目と達成目標ごとに使用する経費を記入してください。(単位:千円)

- ・経費は本研究プロジェクトの遂行に必要な経費です。
- ・経費は政策的配分経費(a)(今回配分された金額)とそれ以外の資金(学内経費、外部資金)とし、それ以外の資金で充当させる場合は「配分経費以外(b)」の欄に金額を記入してください。
- ・研究計画の項目番号ごとに設備備品、旅費、謝金、消耗品費などに分けて、それぞれの明細を出来るだけ具体的に記入してください。
- ・単品の設備備品は配分経費(a)と配分経費以外(b)を合算して購入することはできませんのでご注意ください。

事項(品名)	(対応する研究項目番号)	配分経費(a)	配分経費以外(b)	合計(a+b)
設備備品				
簡易動的貫入試験装置	⑤	160 千円	0	160 千円
消耗品費				
地形図、地質図など資料:	② ③ ④ ⑤	200 千円	0	200 千円
GIS ソフト	① ② ③ ④ ⑤	350 千円	0	350 千円
旅費				
調査旅費:	① ② ③ ④ ⑤	850 千円	0	850 千円
人件費(アルバイト)				
研究補助、会議準備など	⑥	190 千円	0	190 千円
合 計		1,750		1,750

10. 研究の概念図 研究の目的、計画、効果、研究期間終了後の成果の活用、展望などをわかりやすく示す図を貼り付けて下さい。

